





代表取締役社長

國保善次

## 株主の皆様へ

株主の皆様におかれましては、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

当社の第112期第2四半期累計期間(平成22年4月1日から平成22年9月30日まで)が終了しましたので、営業の概況につきましてご報告申し上げます。

平成22年12月

当第2四半期累計期間(平成22年4月1日から平成22年9月30日まで)におけるわが国経済は、期中より円高の進展や世界経済の減速により輸出が鈍化したことから、これまでの緩やかな回復基調から転じて停滞もしくは後退とも言うべき局面を迎えております。

国内鉄鋼業界におきましては、建築向けは厳しい状態が続いており、粗鋼生産量は第1四半期2,806万トンから第2四半期2,735万トンとなり、若干の減少となりました。

当社グループにおきましては、鋼板関連事業は、売上高は前年同期との比較で増加しました。鋼板商品では、国内建築需要の低迷が続いておりますが、環境対応商品の販売活動に注力しクロムフリー化を推進するとともに、主原材料である熱延鋼板価格の高騰に伴い、販売価格の改定に努めてまいりました。特に、台湾の子会社センユースチール社におきましては、前年同期(1月～6月)との比較では売上高・損益ともに大きく増加・改善しました。建材商品、エクステリア商品では、新設住宅着工戸数、非住宅着工床面積の低迷、消費意欲の減退という厳しい事業環境下、環境・エコをキーワードに素材となる鋼板のガルバリウム化を推進して販売活動を展開しております。

ロール事業につきましては、鉄鋼業向け熱延用ロールは、厳しい価格競争にさらされており、同事業全体では前年同期の販売量・売上高を下回る結果となりましたが、太陽光発電装置の保護フィルム製造等に使用されるドリルドロールは、引き続き堅調に推移しております。

グレーチング事業につきましては、前年同期との比較では

販売量・売上高は減少しましたが、高機能商品の販売比率を高めることにより、長引く公共事業投資の削減による市場規模縮小と販売競争の激化に対処しております。

不動産事業につきましては、引き続き底堅く推移しております。

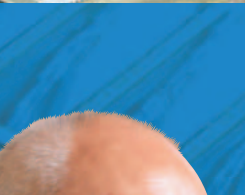
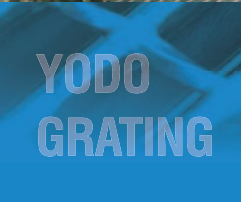
その他事業につきましては、主として倉庫業の業績が低迷しました。

以上のことから、当第2四半期連結累計期間の売上高は719億46百万円となり、前年同期と比べ93億23百万円の増収となり、営業利益は36億57百万円(前年同期比46億4百万円増)、経常利益は42億13百万円(同45億78百万円増)、四半期純利益は13億82百万円(同55億99百万円増)となりました。

なお、中間配当金は、1株当たり5円とし、12月1日よりお支払いすることといたします。

株主の皆様には、今後とも一層のご支援とご指導を賜りますようお願い申し上げます。





## 独自の着眼点で 高付加価値戦略を推進

公共事業における建設予算の削減が進むなかでも、特長を明確にアピールできる独自の高性能商品を武器に躍進をめざします。

従来のグレーチングの概念を超えた「生活関連商品」としての開拓も推進し、より快適な生活を可能にする商品の提案を通じてメーカーの使命を果たします。

### 高性能商品の提案によって さらなるシェア拡大を図る。

グレーチングという商品は、たいへん身近にありながら、日常生活においてはなかなか意識されることのないアイテムです。そもそも、舗装道路に設けられた側溝などの「ふた」にあたるもので、雨や雪といった自然現象によって発生する路面の水を、格子状のすき間を通して排水溝へとスムーズに流す働きをしています。

民需中心で事業展開するヨドコウにおいて、グレーチング事業だけは売上の約80%を公共事業が占めております。建設予算の削減が叫ばれる昨今ではありますが、公共事業は永遠になくならない市場であり、道路を新設することは減少しても維持・修繕は必ず発生します。そこに、単なる取り替えではなく、もう一歩先を

執行役員 グレーチング事業部長

海老原 洋一

行く付加価値を持った高性能商品を提案することによって、シェア拡大を図る戦略を展開しております。

### 市場での差別化を実現する 独自色の強い商品群。

現在、市場の支持が高まっている高性能商品をいくつか挙げておきましょう。

まずは「ヨドウォーターフォールズ」(Ⅰ参照)という商品ですが、これは昨今急増しているゲリラ豪雨に対応する越流抑制グレーチングで、従来品よりもはるかに高い集水効果を発揮します。その革新性と実績が認められ、「ヨドウォーターフォールズ」は2010年3月、東京都建設局の新技术情報データベースに登録されました。この登録は、越流現象の解消に対する高性能商品としてお墨付きをいただいたようなものですので、これをバックアップにさらなる拡販に努めます。

次に挙げたいのが、「ヨドガルファングレーチング」(Ⅱ参照)です。これは、アルミ合金メッキを使用することにより、耐食性を従来品の約5倍に高めたもので、主に漁港や港湾といった沿岸地域の塩害対策として採用実績が上がってきています。沖縄や九州から火が付き、今は

東北・北海道まで全国に実績が広がってきています。

さらに、最近大きな物件の受注も出始めた注目株が、「ヨドかるがるグレーチング」(Ⅲ参照)です。新しく「パワーアシスト機構」を搭載することによって、女性やお年寄りの方でも軽く開閉できるという画期的な商品です。主に、投雪を行う流雪溝が設けられている東北や北海道といった積雪地域での需要や農業用水路の止水板等の管理柵蓋として採用が増えていきます。この商品は従来型の商品とは異なり、日々の生活のなかで住民の方々がグレーチング蓋の開閉をするものですから、従来のグレーチングの概念を超えた「生活関連商品」とであると捉えています。

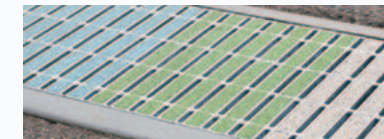
### エンドユーザー直結の営業活動と 製販一体の開発戦略が奏功。

現在、これら的高性能商品がグレーチング事業全体の売上シェア5%を占めて

おり、2010年度はさらに高い10%を目標に掲げて取り組みを進めています。

こうした市場ニーズをとらえた高性能商品を次々と創出できているのは、エンドユーザーに直結した営業活動と、製販一体の開発戦略によるところが大きいと考えています。営業部門は国や都道府県や市町村といった官公庁とは別に、建設会社や漁業組合などエンドユーザーにも積極的に訪問して情報を収集しています。個別物件の受注情報などはいち早く営業活動に活かすとともに、商品に対するニーズは速やかに製造部門へとフィードバックすることによって、市場ニーズをとらえたモノづくりをスピーディに実現する体制を整えています。

また、自社だけでなく異業種各社の技術も採り入れることによって、従来価値を超える「+α」の創出に努めています。ガラス廃材を利用したカラフルなグレーチングがその代表例です。



クリスタルグレーチング

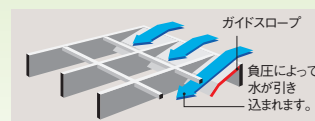
### 住民の方々に、より快適な生活を 送れるような商品提案が使命。

グレーチング事業のさらなる発展を見込み、2010年11月には最新鋭の製造機械を導入して設備増強を図りました。そして、高性能商品の開拓にも一層注力し、公共事業を主要市場とするメーカーの使命として、住民の方々がより快適な生活を送れるような商品を提案していきたいと考えています。グレーチングはまだまだ可能性の広がりを秘めた商品です。みなさまの身のまわりに、新商品のタネとなりうる情報がございましたら、ぜひお寄せいただければ幸いです。

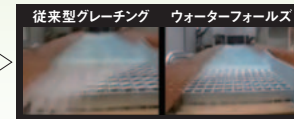
## ヨドコウが誇る最先端グレーチング

### Ⅰ ヨドウォーターフォールズ (越流抑制グレーチング)

従来のグレーチングでは、特に傾斜地において、水の流れが多く、速くなると水がグレーチング柵内に落下せず、柵を越えて流れる「越流現象」が起きます。これにより、道路の冠水や住宅地への浸水といった被害が深刻な問題となってきましたが、ヨドウォーターフォールズは、その越流現象を最小限に抑えるガイドスロープを採用し、画期的な集水効果を可能にしました。



※Web上で、従来型グレーチングとの比較実験映像を公開しています。



URL <http://www.yodoko.co.jp/product/grating/>

### Ⅱ ヨドガルファングレーチング

海岸地域の塩害環境では、サビによる腐食がひどく、グレーチングの耐久年数は約5年と言われています。そこでヨドコウでは、溶融亜鉛メッキよりも高い耐食性をもつ、アルミ合金メッキを用いたヨドガルファングレーチングを開発し、耐久性を従来品の約5倍に高めました。



教賀港鞠山南地区 多目的国際ターミナル造成工事

### Ⅲ ヨドかるがるグレーチング

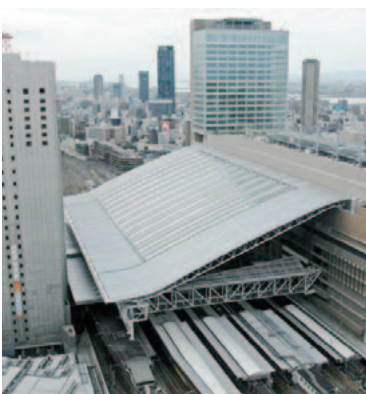
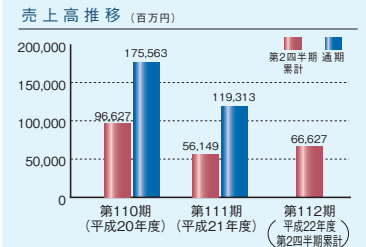
ヨドかるがるグレーチングは、自動車のトランクなどに使われているトーションバーという技術を用いた「パワーアシスト機構」によって、大きなサイズのグレーチングでも約半分以下の軽い開閉操作力を実現しました。投雪を行う流雪溝や農業用水路の止水板の上など、ひんぱんに開閉するグレーチングとして好評を得ています。





鋼板関連事業

主な製品  
冷延鋼板、磨帯鋼、カラー鋼板、ガルバリウム鋼板ほかの表面処理鋼板、建築材料（屋根材、壁材など）、建設工事の設計および施工、エクステリア商品（物置、ガレージ、自転車置場、ダストピットなど）



大阪駅 ドーム大屋根工事

ゴミ収集庫 ダストピット

2010年度  
グッドデザイン賞  
受賞



GOOD DESIGN



ダストピット Rタイプ DPR-A-1807

鋼板関連事業

鋼板業務

海外需要に対応すべく  
海外子会社との連携強化。

中国を始め新興国の旺盛な需要や寡占化した資源メジャーの圧力等もあり原材料価格は大幅に上昇する厳しい状況下、家電向けPCM鋼板は、エコポイント制度の政策効果で好調に推移。台湾の子会社センユースチール社は、売上・損益ともに大幅に改善しました。

今後は、顧客の生産拠点の海外シフトに伴い、東南アジア、東アジア向けの家電分野（特に薄型テレビ・冷蔵庫）の拡販に対応すべく設備増強を含めてタイのPPT社、マレーシアのPSP社の海外子会社と一層の連携強化を図ります。

・PPT社 … PCM Processing (Thailand) LTD.  
・PSP社 … PCM Steel Processing SDN. BHD.

建材業務

大型物件の完工と  
ダストピットが好調に推移。

建築関連需要の低迷の中、売上げは堅調に推移。国内店売鋼板商品は、本年1月より全国営業所にて販売を手がけ、地域に密着した営業により好調に推移。

建材商品では、壁材の断熱パネル「ファインパネル」は、省エネ志向等により販売量は大幅に増加。工事グループでは、「大阪駅 ドーム大屋根工事」を完工。また拡販に注力している太陽光発電システム「ファインソーラー」を「さいたまスーパーアリーナ」に設置しました。

エクステリア商品では、市場で好評のガルバリウム鋼板製物置の更なるPR・拡販に注力。ダストピットは、ごみの分別収集化など環境意識が高まる中、自治体の補助金制度もあり好調に推移。「ダストピット」Rタイプは、ごみ投入・回収に配慮した構造等が評価され『2010年度グッドデザイン賞』を受賞しました。

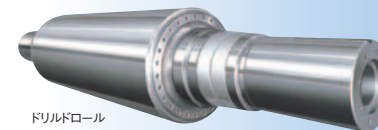
スチール! & アイデア!  
ヨドコウ

ロール事業

ゴム・ビニール業界向け  
ドリルドロールが好調に推移。

原材料価格の高騰を販売価格に転嫁できず、また、海外向けも価格競争の激化等により前年同期比で減収・減益。

鉄鋼向けは、品質面での優位性を武器に海外の新規顧客開拓に注力し、厚板用ワークロールを中国の鉄鋼メーカーから新規受注。一方、非鉄向けは、製紙業界向けが依然厳しい状況ですが、ゴム・ビニール業界向けは太陽光発電装置の保護フィルム等の製造に使用されるドリルドロールが好調に推移。今後は、鉄鋼向けは海外展開を図るとともに、高品質のワークロールを中心に拡販に努め、非鉄向けは引き続きドリルドロールの販売に注力します。



ドリルドロール

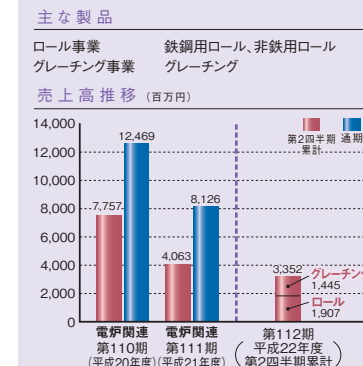
グレーチング事業

ユーザーの需要に応じた  
高性能商品の拡販に注力。

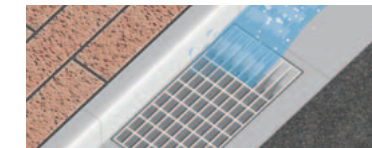
土木業界は、公共事業の削減・予算執行の遅れおよび民間需要の減少等厳しい環境が続いており、需要の減少と海外品による価格競争のあおりを受け、前年同期比で減収・減益。

ゲリラ豪雨対策に高い評価を得ている「ヨドウォーターフォールズ」や海岸地区等に求められる高い耐食性を持つ「ヨドガルファングレーチング」等、ニーズに応じた高性能商品の拡販に努めます。

ロール事業・グレーチング事業



(注)当期【第112期】より電炉関連事業をロール事業、グレーチング事業の2つのセグメントに分割しました。



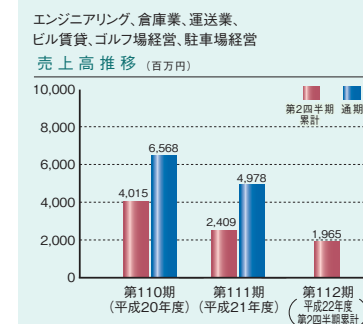
越流抑制商品「ウォーターフォールズ」

不動産事業・その他事業

不動産事業につきましては、引き続き安定的な収益を確保しました。

その他事業のエンジニアリング業務につきましては、円高で厳しい状況が続いておりますが、アフリカ向けに横型波付機を納入し、アフリカ、東南アジア、中米向けに設備の予備品を販売しました。

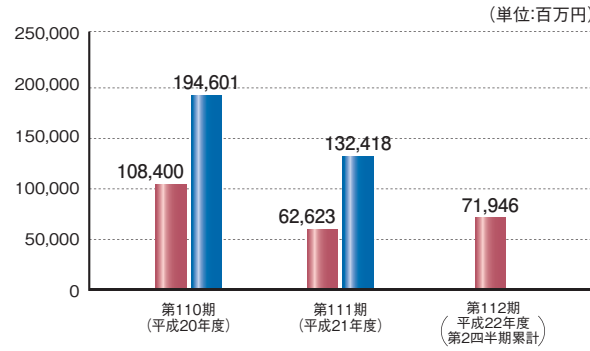
不動産事業・その他事業



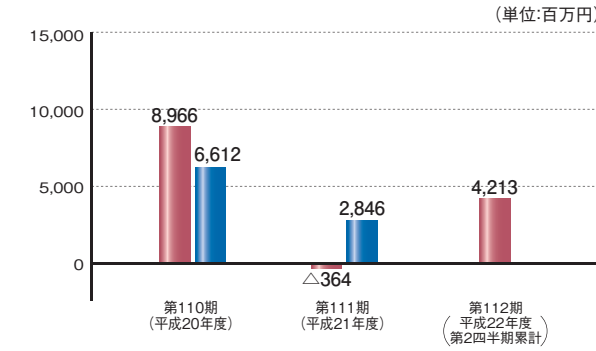
# 連結業績ハイライト

■ 第2四半期累計 ■ 通期

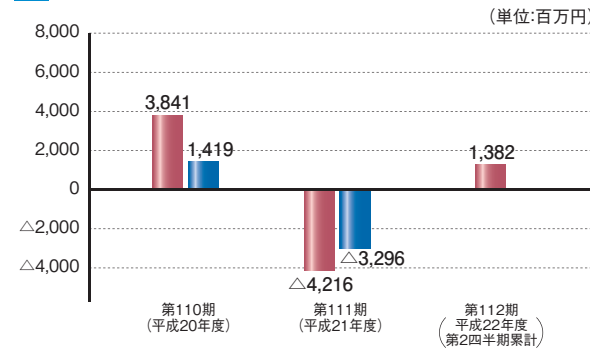
## 売上高



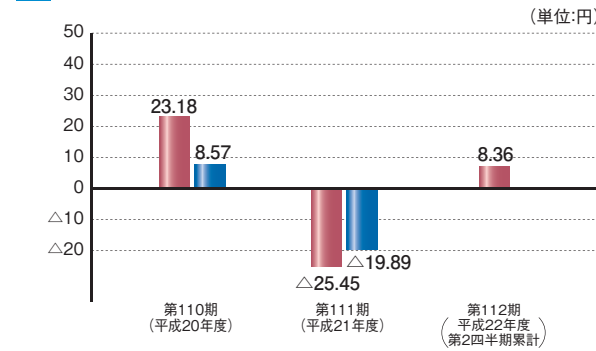
## 経常利益



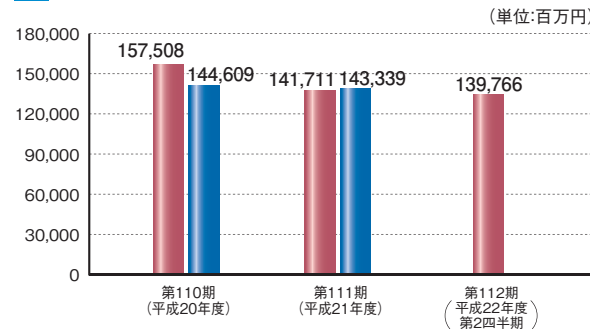
## 四半期(当期)純利益



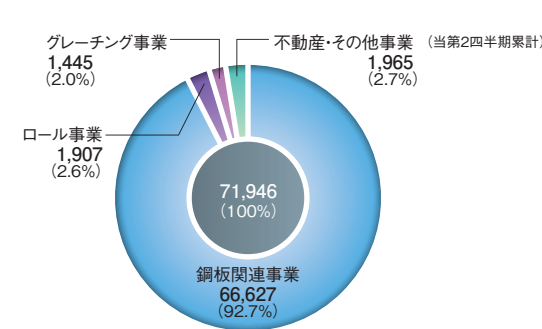
## 1株当たりの四半期(当期)純利益



## 純資産



## 当期セグメント別売上高構成比



# 連結決算の概要

## 貸借対照表

(単位:百万円)

科目	当第2四半期末 平成22年9月30日	科目	当第2四半期末 平成22年9月30日
<b>【資産の部】</b>		<b>【負債の部】</b>	
流動資産	92,266	流動負債	21,706
現金及び預金	14,366	支払手形及び買掛金	15,328
受取手形及び売掛金	31,706	短期借入金	220
有価証券	14,088	その他	6,157
棚卸資産	29,080	固定負債	13,069
その他	3,226	退職給付引当金	7,291
貸倒引当金	△203	長期預り保証金	3,590
固定資産	82,276	その他	2,186
有形固定資産	49,542	負債合計	34,776
建物及び構築物	15,126		
機械装置及び運搬具	14,397	<b>【純資産の部】</b>	
土地	18,903	株主資本	127,513
その他	1,114	資本金	23,220
無形固定資産	420	資本剰余金	23,752
投資その他の資産	32,313	利益剰余金	88,824
投資有価証券	28,968	自己株式	△8,284
その他	3,398	評価・換算差額等	△11
貸倒引当金	△53	その他有価証券評価差額金	3,275
		土地再評価差額金	1,321
		為替換算調整勘定	△4,607
		新株予約権	109
		少数株主持分	12,153
		純資産合計	139,766
資産合計	174,542	負債及び純資産合計	174,542

## 損益計算書

(単位:百万円)

科目	当第2四半期累計期間 平成22年4月1日から 平成22年9月30日まで
売上高	71,946
売上原価	61,474
売上総利益	10,471
販売費及び一般管理費	6,814
営業利益	3,657
営業外収益	719
営業外費用	163
経常利益	4,213
特別利益	4
特別損失	959
税金等調整前四半期純利益	3,258
法人税、住民税及び事業税	705
法人税等調整額	768
少数株主利益	401
四半期純利益	1,382

## キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

科目	当第2四半期累計期間 平成22年4月1日から 平成22年9月30日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー	3,149
投資活動によるキャッシュ・フロー	△561
財務活動によるキャッシュ・フロー	△1,581
現金及び現金同等物に係る換算差額	△37
現金及び現金同等物の増加額	969
現金及び現金同等物の期首残高	26,890
現金及び現金同等物の四半期末残高	27,860

(注)記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。



## 株式の概要 [平成22年9月30日現在]

### 株式の状況

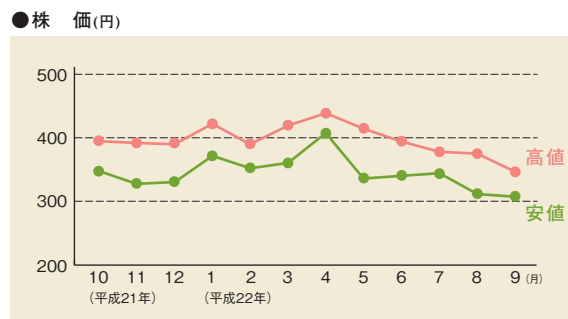
発行する株式の総数	753,814,067株
発行済株式の総数	184,186,153株
株主数	9,244名

### 大株主

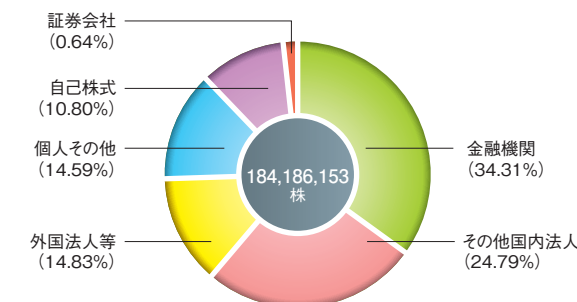
株主名	持株数 (千株)	持株比率 (%)
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	9,710	5.27
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	5,534	3.00
みずほ信託銀行株式会社	5,470	2.96
株式会社りそな銀行	5,342	2.90
株式会社みずほコーポレート銀行	5,310	2.88
資産管理サービス信託銀行株式会社(証券投資信託口)	4,132	2.24
日本生命保険相互会社	3,866	2.09
シービーエヌワイデイエフエンター・ナショナルキャップバリューポートフォリオ	3,855	2.09
ヨドコウ取引先持株会	3,290	1.78

(注)当社は、自己株式19,909千株を保有しておりますが、上記大株主からは除外しております。

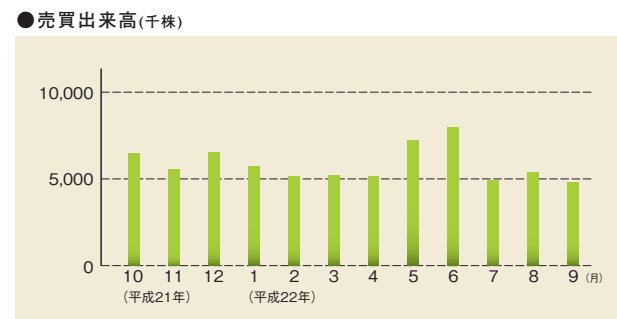
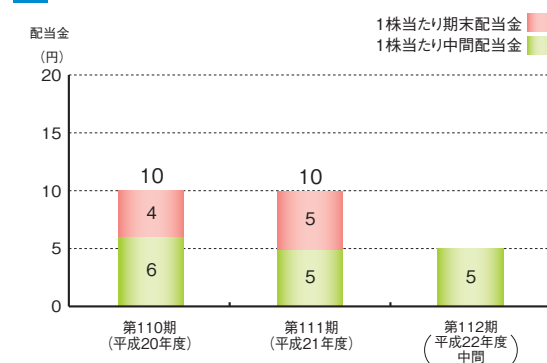
### 株価・株式売買出来高の推移 (東京証券取引所)



### 所有者別株式分布状況



### 1株当たり配当金推移



## 会社の概要 [平成22年9月30日現在]

### 当社の概要

社名	株式会社淀川製鋼所
設立	昭和10年1月30日
資本金	23,220,815,228円
従業員数	1,320名

### 当社の主な事業所

本社	〒541-0054 大阪市中央区南本町四丁目1番1号 06-6245-1111
支社	〒104-0041 東京都中央区新富一丁目3番7号 03-3551-1171
営業所	札幌、盛岡、仙台統括、新潟、長野、高崎、東京統括、横浜、静岡、北陸、名古屋統括、大阪統括、神戸、岡山、福山、広島、高松統括、高知、八幡、福岡統括、鹿児島、沖縄
工場	大阪(大阪府)、呉(広島県)、市川(千葉県)、福井(福井県)、泉大津(大阪府)

### 当社の主な関係会社

- 連結子会社
  - 高田鋼材工業株式会社 鋼板の加工および販売
  - 盛餘股份有限公司(センユースチール社) 鉄鋼製品の製造および販売
  - 白洋産業株式会社 鉄鋼卸業、運送業
  - 京葉鐵鋼埠頭株式会社 倉庫業
  - ヨドコウ興発株式会社 ゴルフ場等経営および不動産賃貸
- 持分法適用関連会社
  - 株式会社佐渡島 鉄鋼卸業

### 当社の役員

取締役	執行役員
代表取締役社長	國保 善次
代表取締役	専務執行役員 寺田 剛尚
取締役	常務執行役員 遠山 巽
取締役	常務執行役員 西村 修
取締役	常務執行役員 河本 隆明
取締役	上席執行役員 石田 榮次
	上席執行役員 大森 眞
	上席執行役員 大森 豊実
	上席執行役員 向井 信正
	執行役員 澤田 滋
	執行役員 海老原洋一
	執行役員 鉄橋 彰
	執行役員 林 真生

※石田榮次氏は会社法に定める社外取締役です。

監査役	
監査役(常勤)	天谷 薫
監査役(常勤)	境口 勝己
監査役	今西 康訓
監査役	湯浅 光章

※今西康訓および湯浅光章の両氏は会社法に定める社外監査役です。